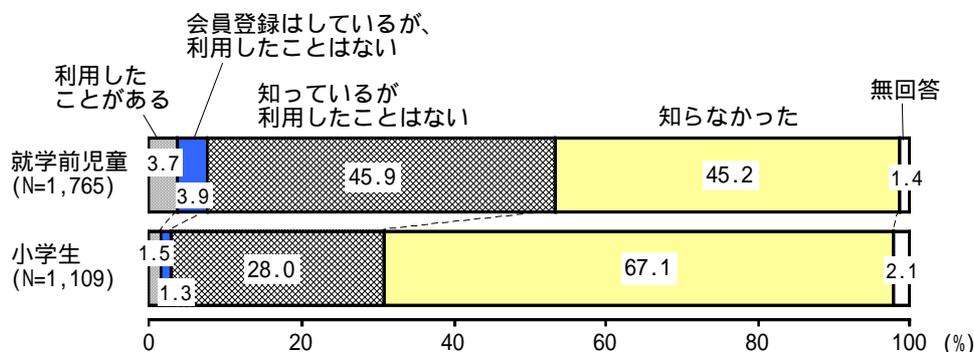


6. 地域における子育て支援サービスについて

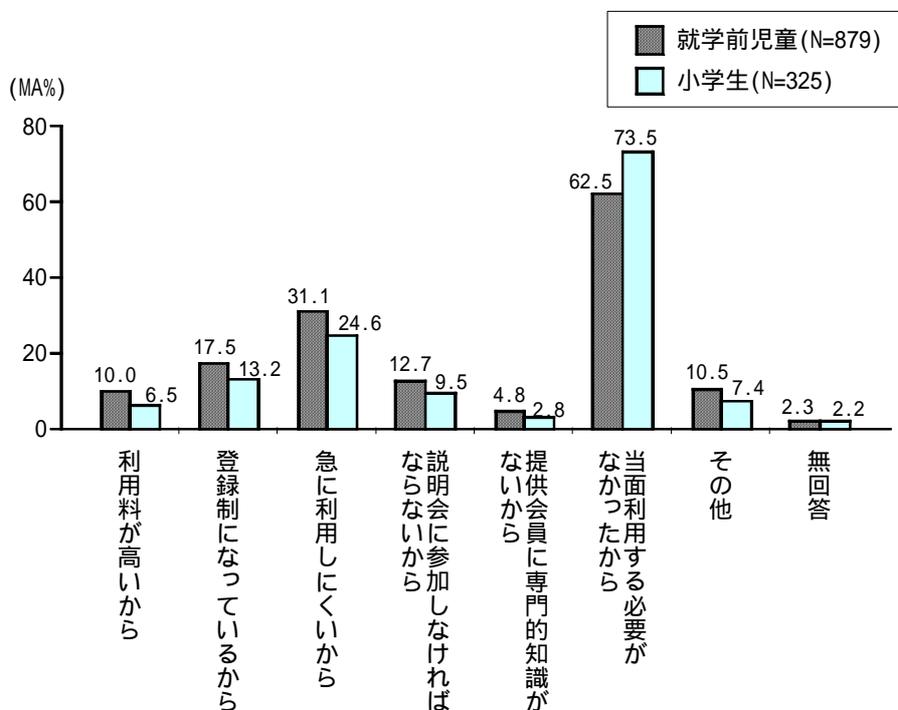
(1) ファミリーサポートセンター事業の利用・認知状況等(問28・問20)

【図 ファミリーサポートセンター事業の利用状況】



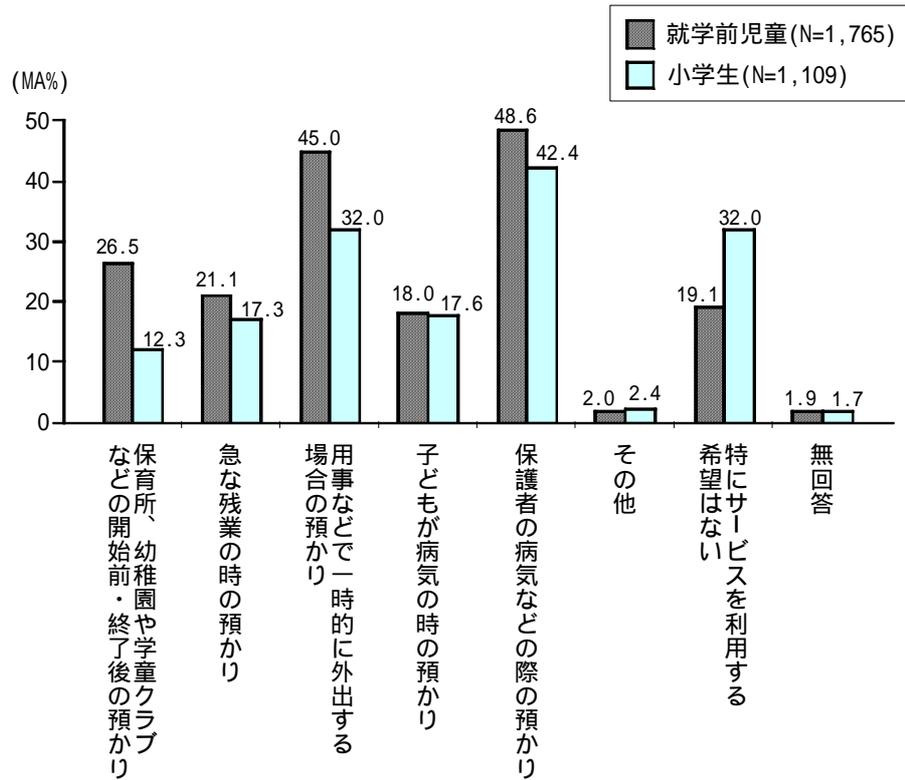
ファミリーサポートセンター事業を利用したことがある人は、就学前児童が3.7%、小学生児童が1.5%となっており、双方とも「知らなかった」が多くなっている。また、会員登録をしているものの利用していない人は、就学前で3.9%、小学生で1.3%みられた。

【図 ファミリーサポートセンター事業を利用しない理由】



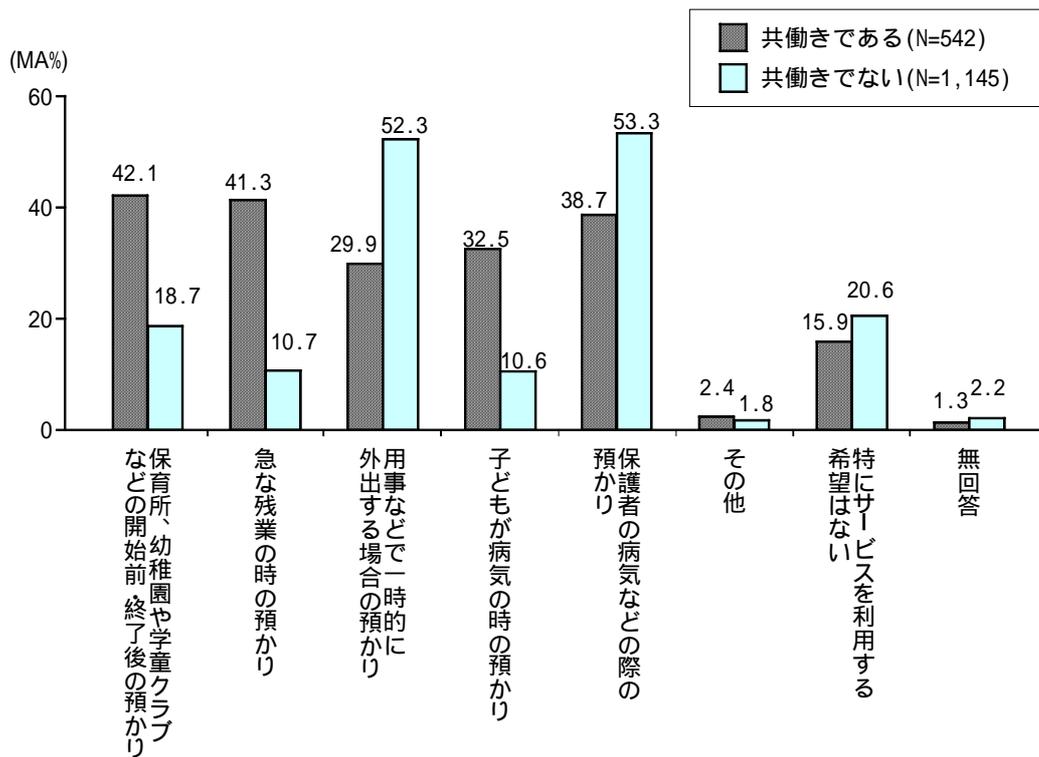
ファミリーサポートセンター事業を利用していない理由についてみると、就学前児童(62.5%)、小学生(73.5%)ともに「当面利用する必要がなかったから」が最も多く、次いで「急に利用しにくいから」の順となっている。

【図 ファミリーサポートセンターを利用したい時】

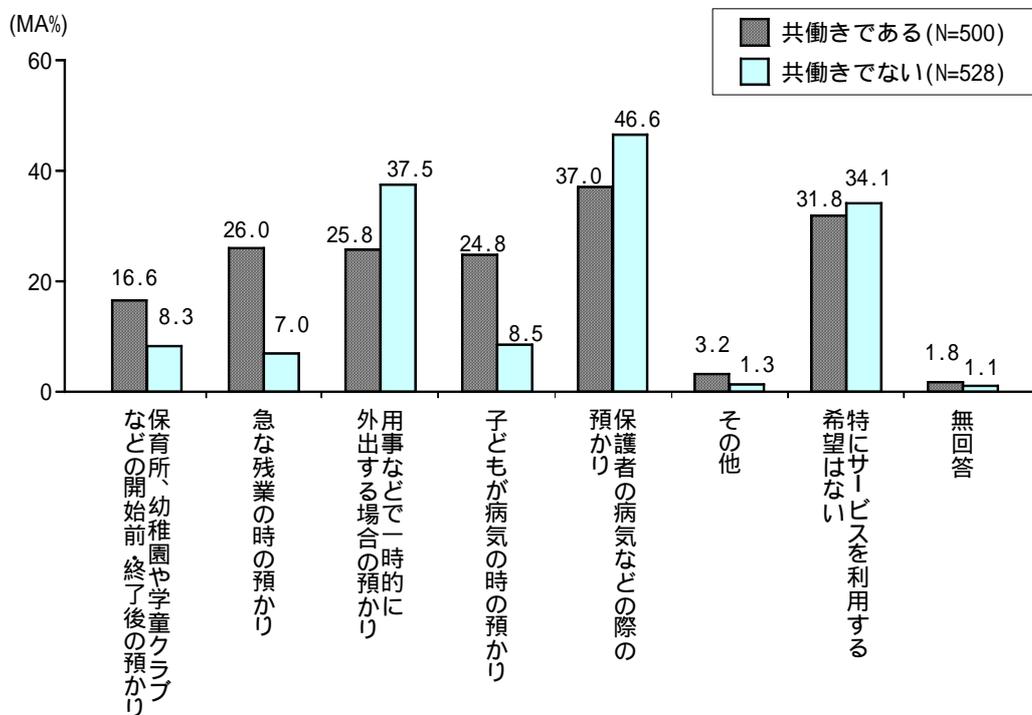


ファミリーサポートセンターを利用したい時は、就学前児童（48.6%）、小学生（42.4%）ともに「保護者の病気などの際の預かり」が最も多く、次いで「用事などで一時的に外出する場合の預かり」の順となっている。

【図 共働き状況別 ファミリーサポートセンター事業の利用を希望する状況（就学前児童）】

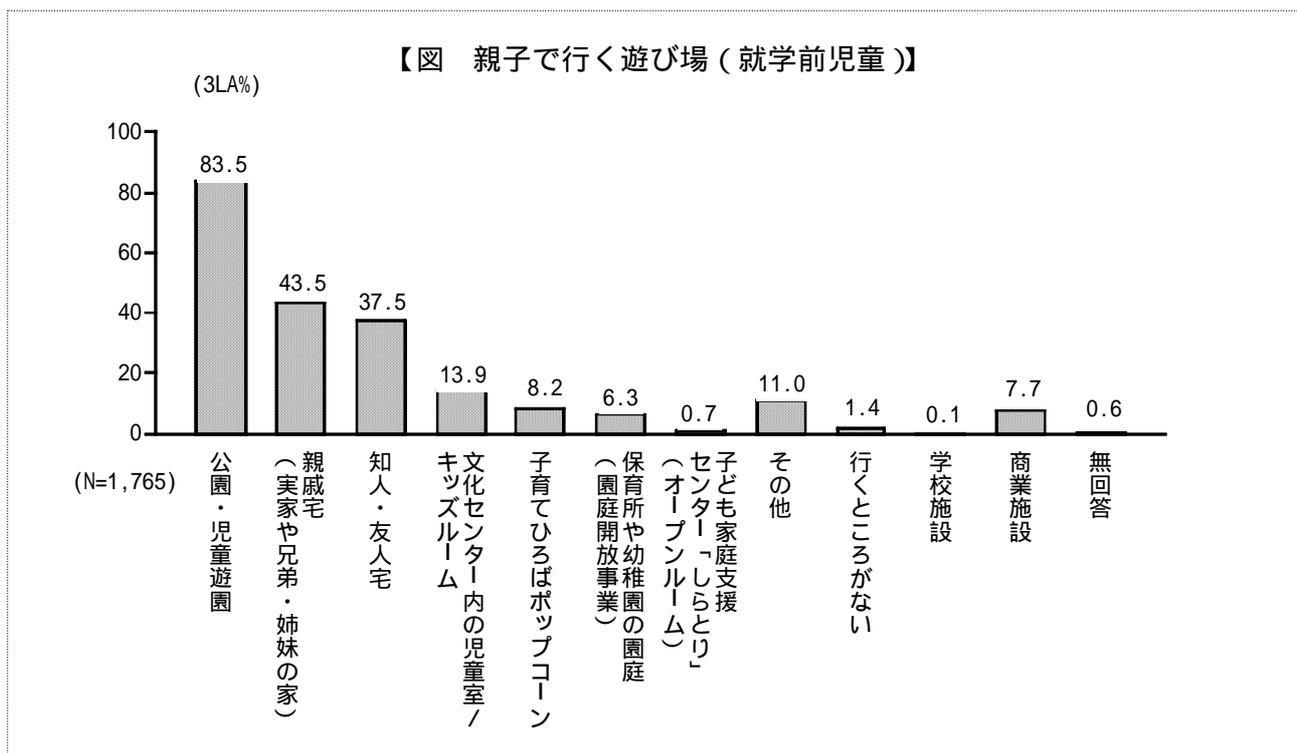


【図 共働き状況別 ファミリーサポートセンター事業の利用を希望する状況（小学生）】

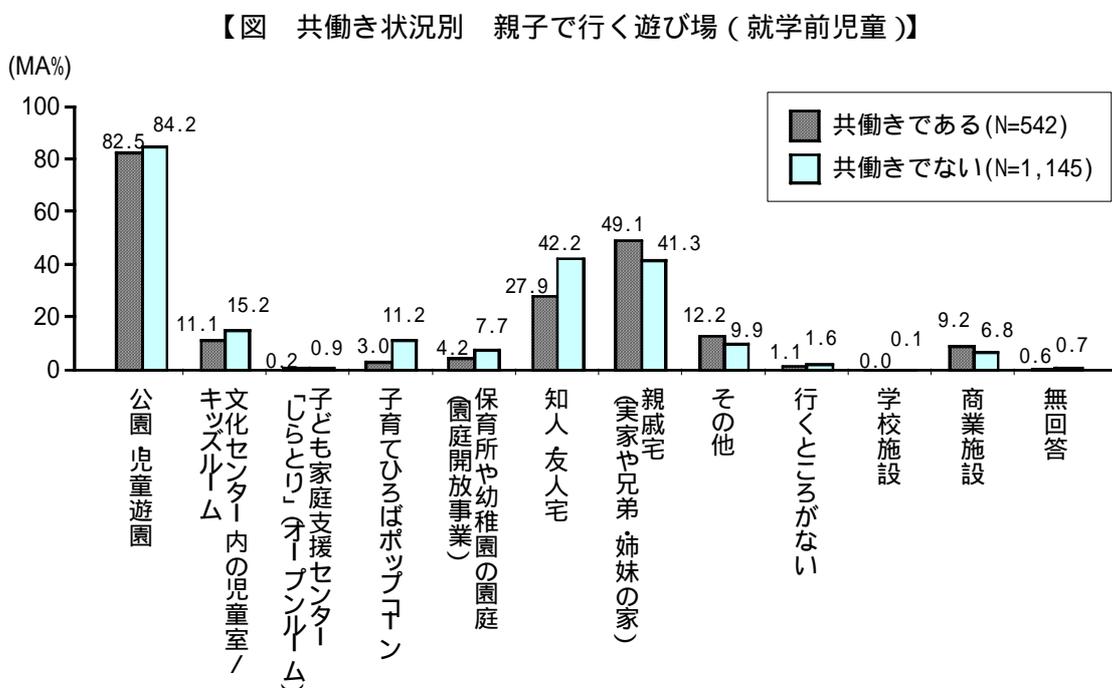


共働きの状況別にみると、就学前児童、小学生ともに「保育所、幼稚園や学童クラブなどの開始前・終了後の預かり」「急な残業の時の預かり」「子どもが病気の時の預かり」は共働きの世帯が共働きでない世帯に比べ高く、「用事などで一時的に外出する場合の預かり」「保護者の病気などの際の預かり」では共働きでない世帯が共働きの世帯に比べ高くなっている。

(2) 親子で行く遊び場 (就学前 問29)



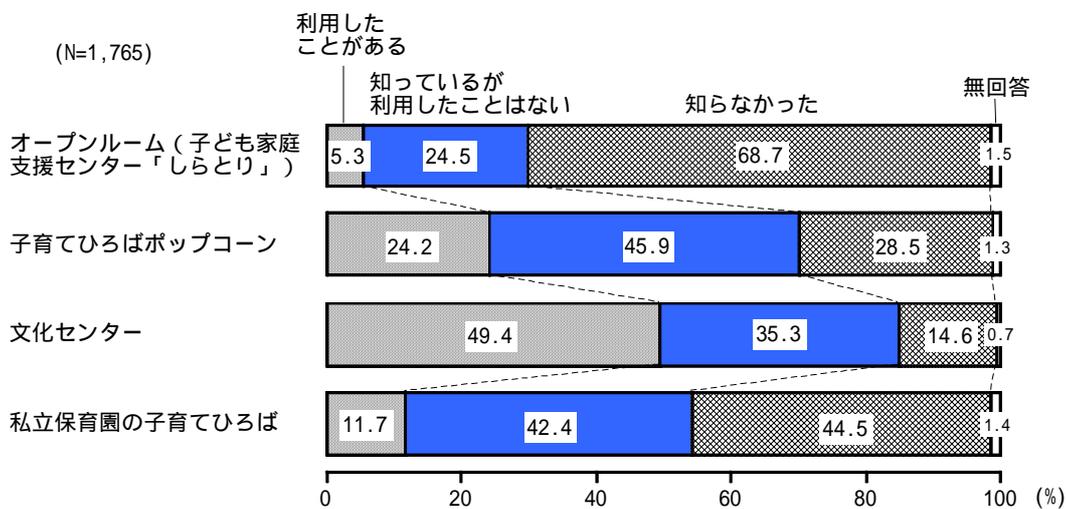
就学前児童の親子が行く遊び場をみると、「公園・児童遊園」が 83.5%と最も多く、次いで「親戚宅 (実家や兄弟・姉妹の家)」(43.5%)、「知人・友人宅」(37.5%)の順となっている。



共働きの状況別にみると、「公園・児童遊園」が共働きの世帯 (82.5%)、共働きでない世帯 (84.2%) とともに 80% 以上、「親戚宅 (実家や兄弟・姉妹の家)」でも 40% 以上を占める他、共働きでない世帯では「知人・友人宅」も 42.2% と高かった。

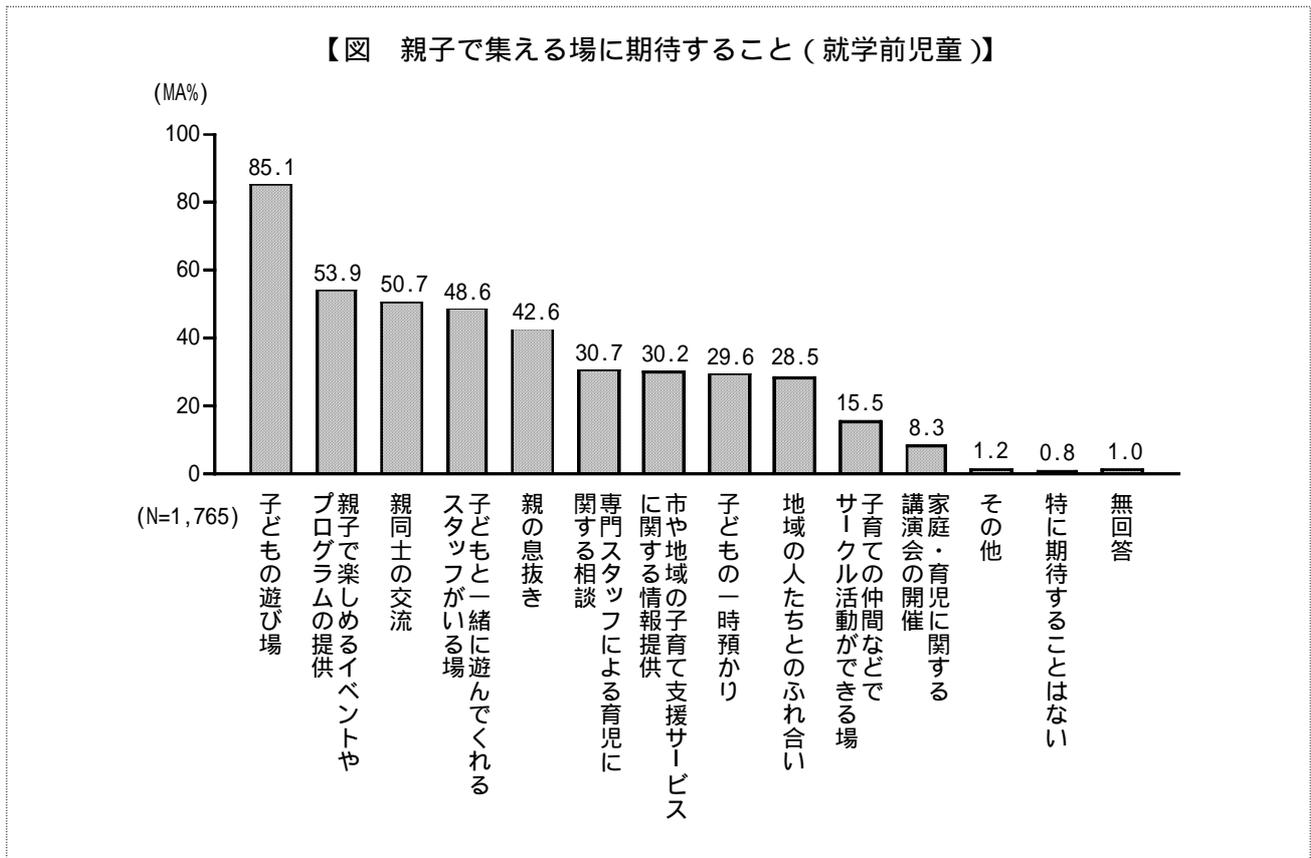
(3) 親子で集える場の認知状況 (就学前 問 30)

【 図 親子で集える場の認知状況 (就学前児童) 】



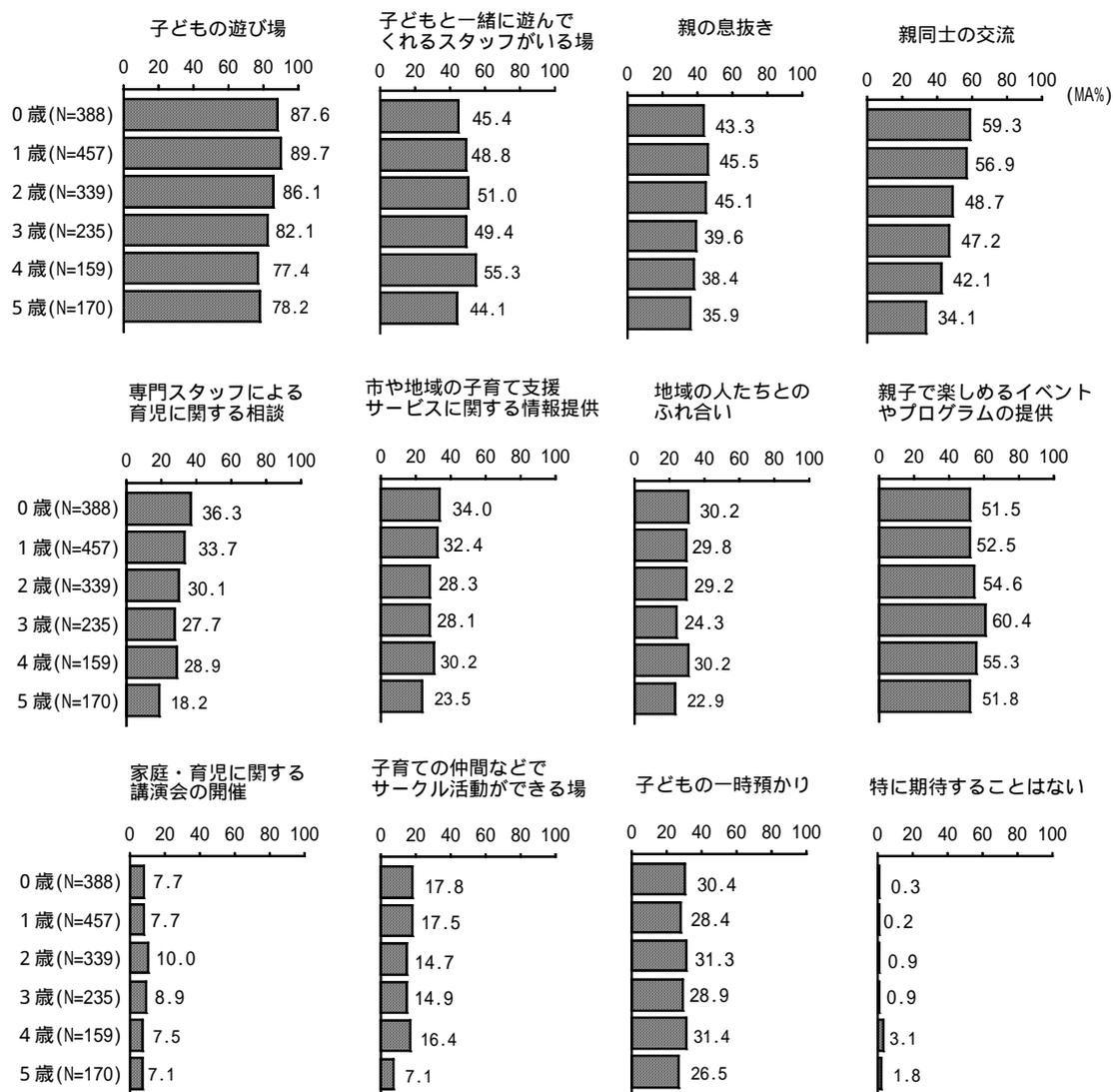
親子で集える場の認知・利用状況を見ると、最も利用度が高いのは 文化センターで 49.4% となっている。また、認知度が低いのは オープンルーム (子ども家庭支援センター「しらとり」) で 68.7% となっている。

(4) 親子で集える場に期待する役割 (就学前 問 31)



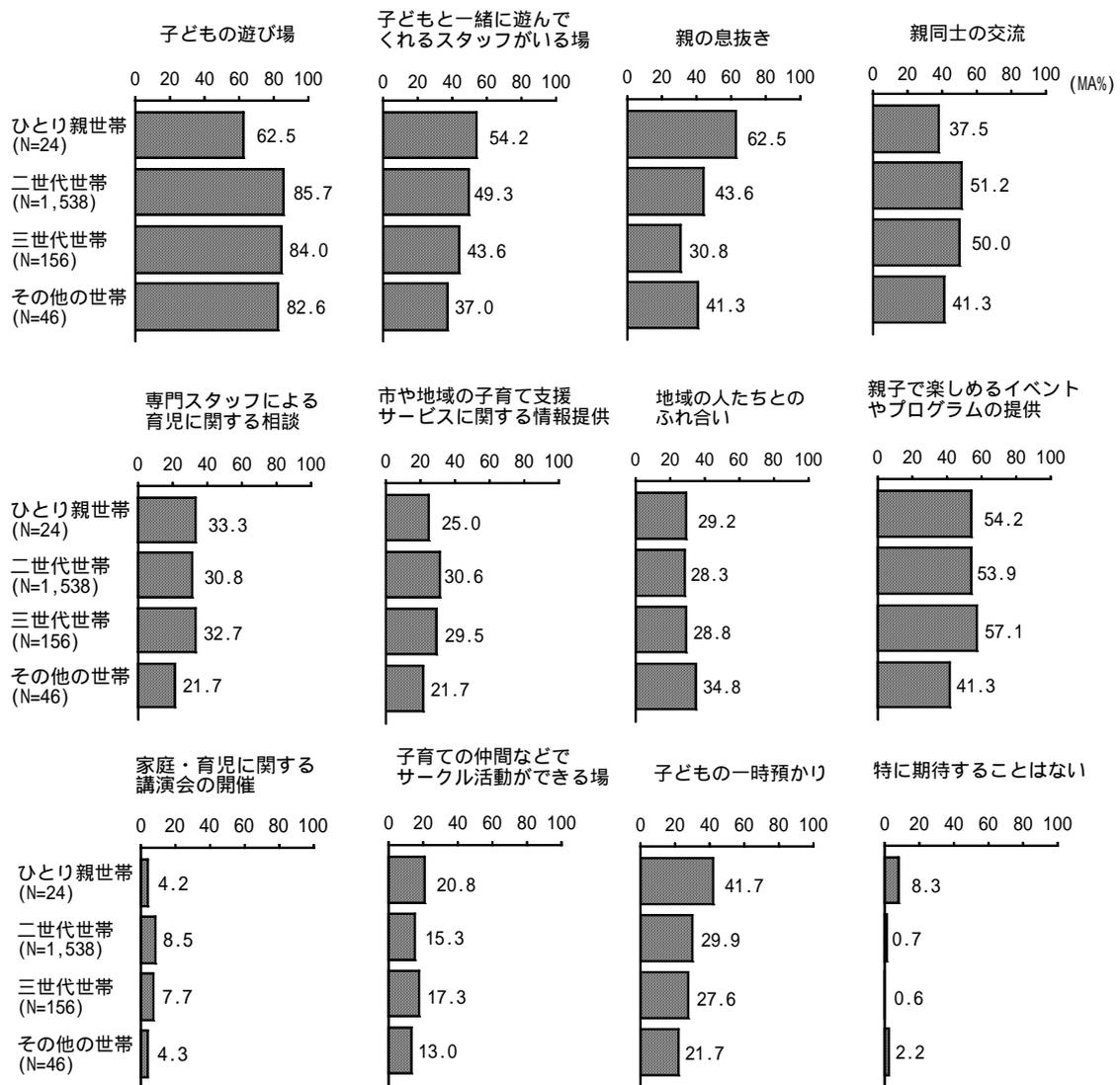
親子で集える場に期待することについてみると、「子どもの遊び場」が 85.1% と最も多く、次いで「親子で楽しめるイベントやプログラムの提供」(53.9%)、「親同士の交流」(50.7%) などとなっている。

【図 末子の年齢別 親子で集える場に期待すること（就学前児童）】



末子の年齢別で見ると、いずれの年齢でも「子どもの遊び場」が70～80%台と最も高く、「親子で楽しめるイベントやプログラムの提供」も過半数を占めている。また、0歳(59.3%)、1歳(56.9%)では「親同士の交流」も高くなっている。

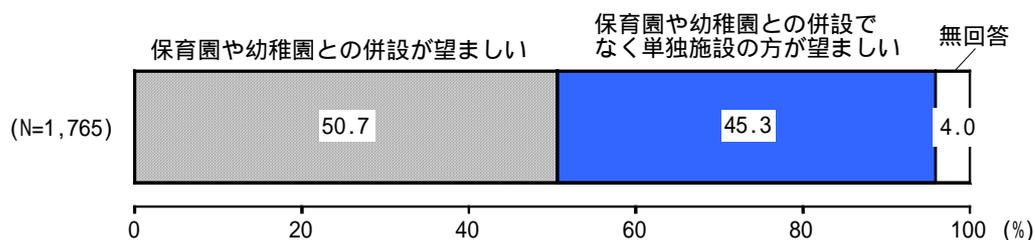
【図 世帯構成別 親子で集える場に期待すること（就学前児童）】



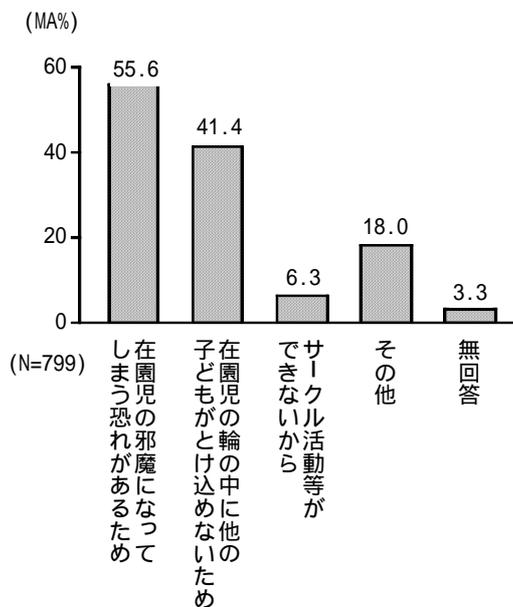
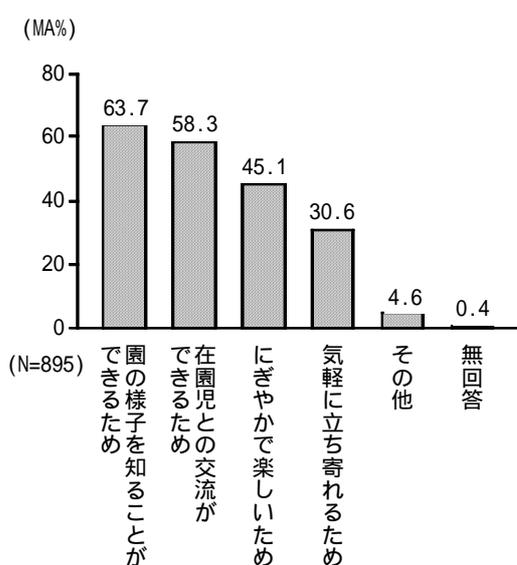
世帯構成別にみると、いずれの世帯でも「子どもの遊び場」が最も高くなっている。また、ひとり親の世帯では「親の息抜き」が62.5%と他の世帯に比べ高くなっている。

(5) 保育所・幼稚園に関する要望 (就学前 問 31)

【 図 保育施設に併設することについて (就学前児童) 】



【 図 併設が望ましいと考える理由 (就学前児童) 】 【 図 単独施設が望ましいと考える理由 (就学前児童) 】

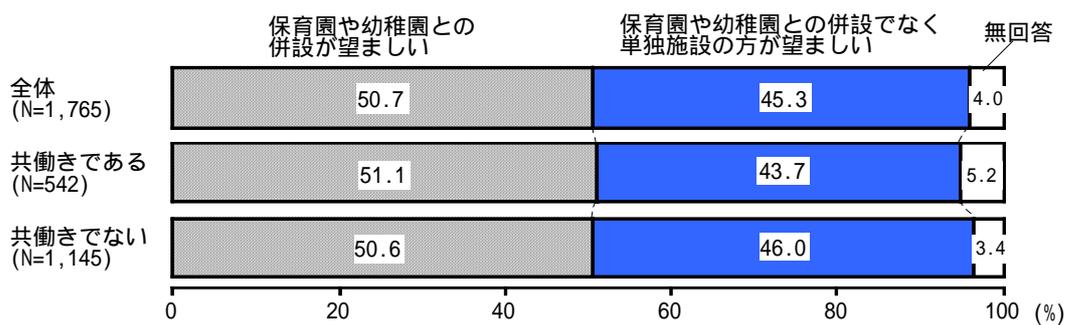


親子で集える場を保育所・幼稚園に併設することについてみると、「保育所や幼稚園との併設が望ましい」が 50.7%と過半数を占め、「保育所や幼稚園との併設ではなく単独施設の方が望ましい」(45.3%) より若干多くなっている。

保育所や幼稚園との併設を望む理由をたずねたところ、「園の様子を知ることができるため」が 63.7%と最も多く、次いで「在園児との交流ができるため」(58.3%) となっている。

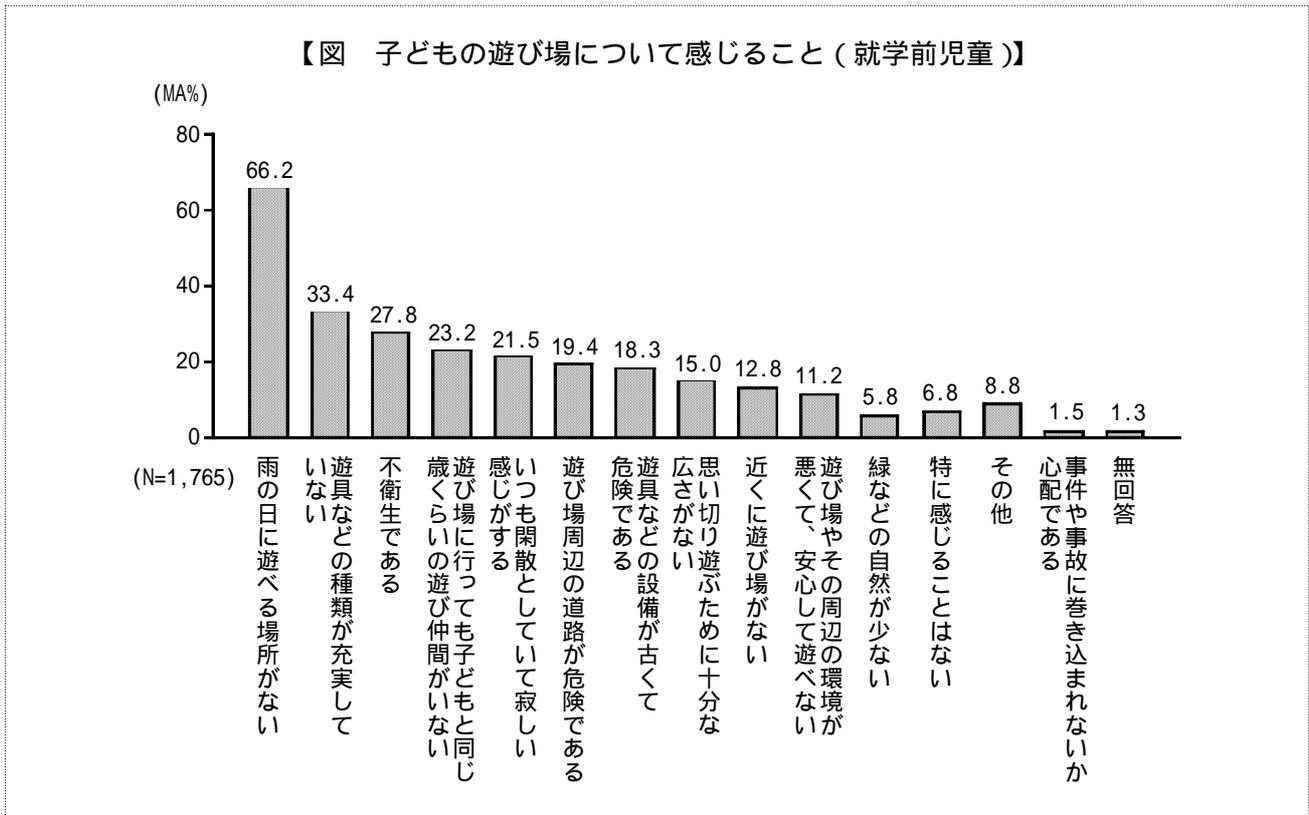
また、単独施設を望む理由については、「在園児の邪魔になってしまう恐れがあるため」が 55.6%と最も多く、次いで「在園児の輪の中に他の子どもがとけ込めないため」(41.4%) の順となっている。

【図 共働きの状況別 保育施設に併設することについて（就学前児童）】



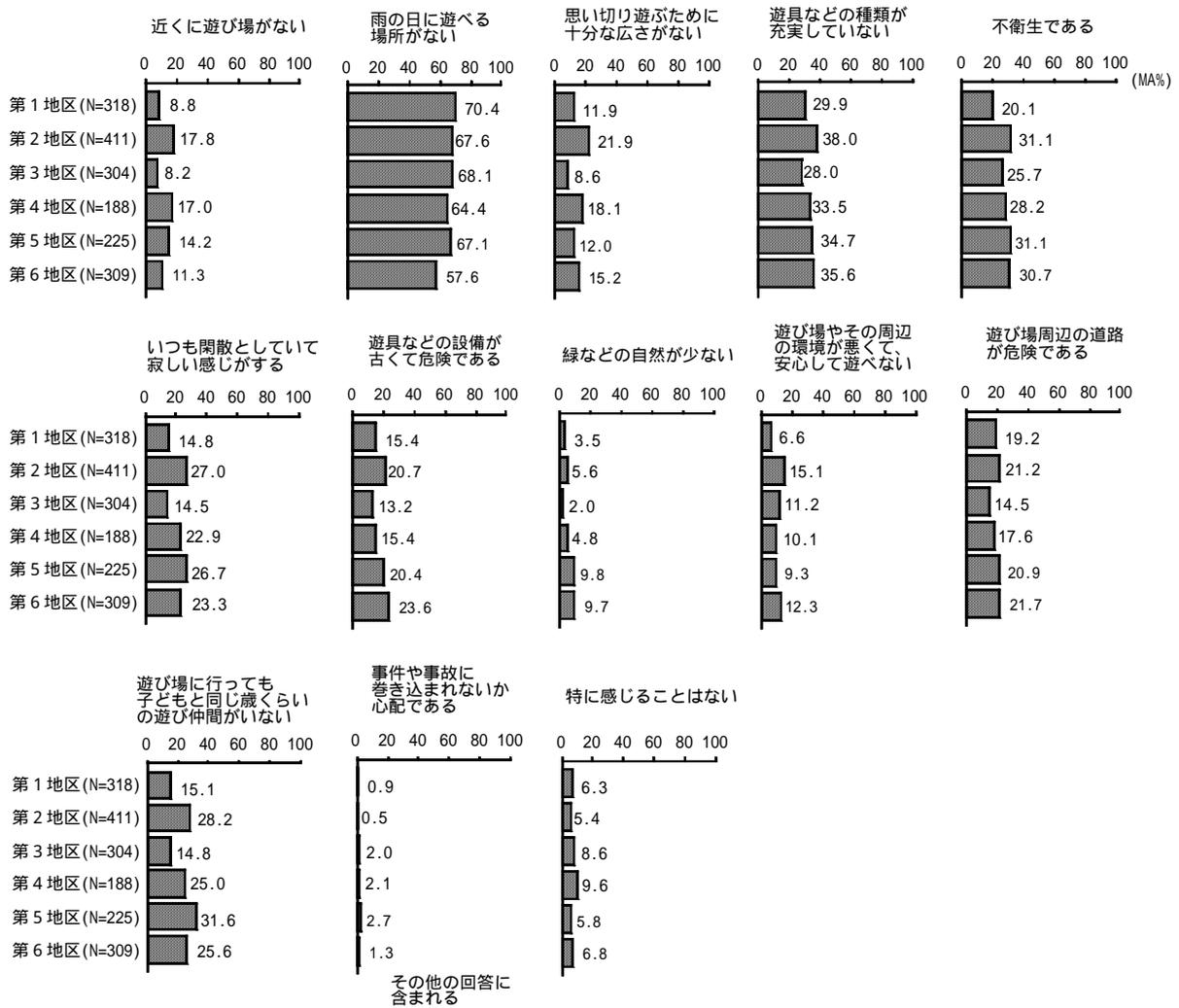
共働きの状況別にみると、共働きの世帯（51.1%）、共働きでない世帯（50.6%）ともに「保育園や幼稚園との併設が望ましい」が過半数を占める。

(6) 子どもの遊び場について感じること(就学前 問32)



就学前児童の子どもの遊び場について日頃感じることをみると、「雨の日に遊べる場所がない」が 66.2%と最も多く、次いで「遊具などの種類が充実していない」(33.4%)、「不衛生である」(27.8%)の順となっている。

【図 地区ブロック別 子どもの遊び場について感じること（就学前児童）】

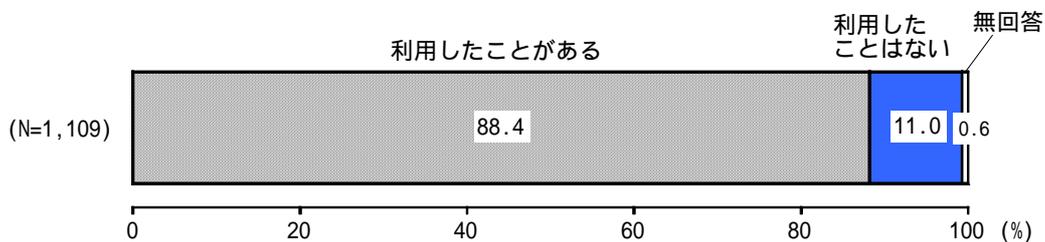


地区ブロック別にみると、いずれの地区においても「雨の日に遊べる場所がない」が最も高くなっており、「遊具などの種類が充実していない」「不衛生である」も20%台、30%台を占める。

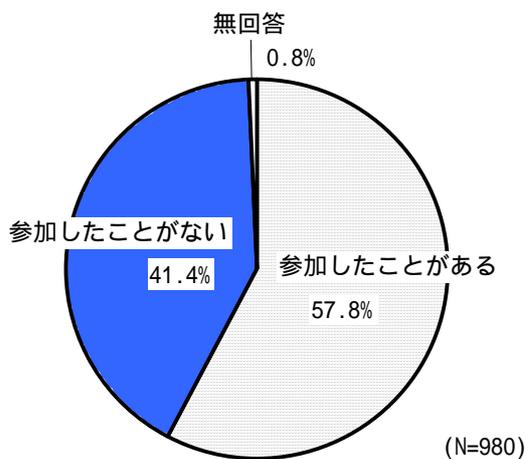
7. 地域活動について

(1) 文化センターの利用状況と参加状況 (小学生 問21)

【図 文化センターの利用状況 (小学生)】



【図 文化センターの参加状況 (小学生)】

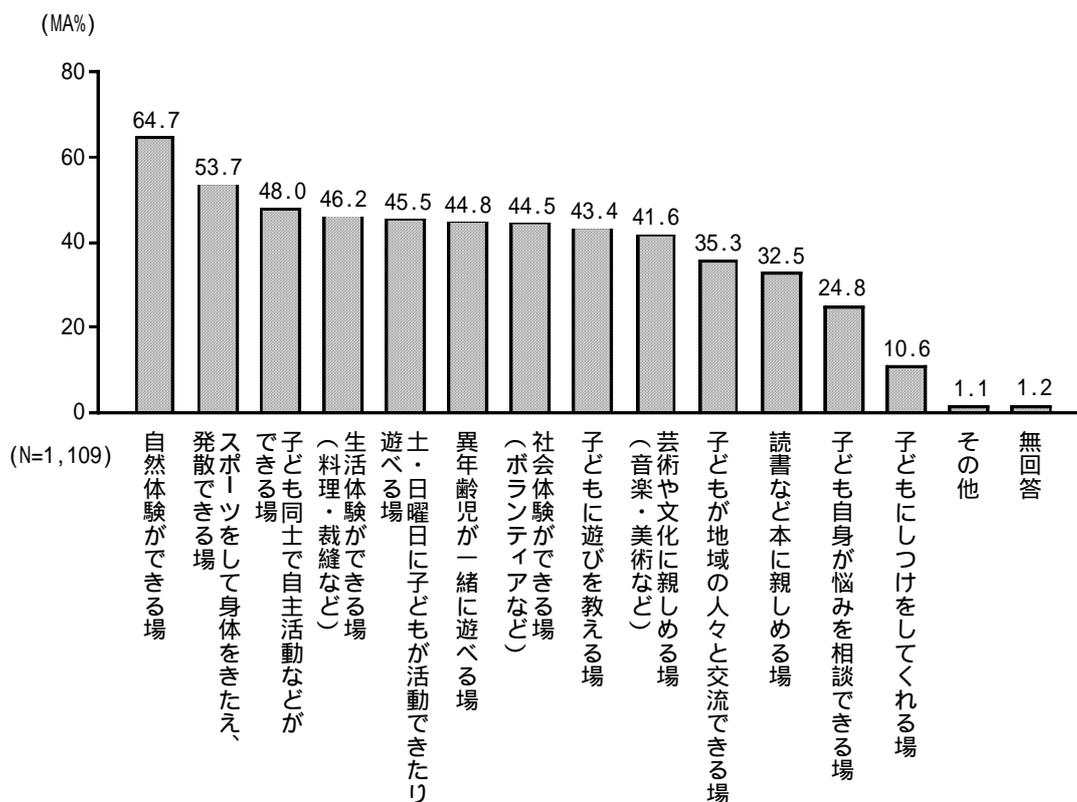


文化センターを「利用したことがある」人は、88.4%となっている。

文化センターでの子ども向けの講座への参加状況については、「参加したことがある」(57.8%)、「参加したことがない」(41.4%)となっている。

(2) 身近な地域で子どもが集う場に期待する役割 (小学生 問 22)

【図 地域で子どもが集える場についての要望 (小学生)】



小学生の子どもが地域で集える場として望むことをたずねたところ、「自然体験ができる場」が64.7%と最も多く、次いで「スポーツをして身体をきたえ、発散できる場」(53.7%)、「子ども同士で自主活動などができる場」(48.0%) などとなった。